

令和5年度 第3回 小金井ボランティア・市民活動センター
運営委員会 議事録

1. 日 時 令和6年3月25日（火）午後6時00分～午後7時45分
2. 場 所 社会福祉協議会 2階会議室
3. 出席者 運営委員（12名）

山路 憲夫 委員長 川畑 美和子 副委員長
加藤 弘子 尾崎 庸子 渡辺 一弘 竹村 雅裕
森田 真希 根本 礼太 中川 法子 三浦 真
松嶋 有香 榎本 朝美

事務局

中谷 行男 常務理事 室岡 利明 事務局長
小早川 良信 地域福祉係長 近江屋 哉子 主任
久保田 朱里 主事 新開 由季子 職員

市民協働支援センター準備室

北脇 理恵 市民協働推進員

傍聴人 1名

4. 配付資料

- 1) 令和5年度小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会（第3回）次第
- 2) 小金井ボランティア・市民活動センター令和5年度事業進捗状況
- 3) 小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況
（令和5年度4月～令和6年2月）
- 4) 令和6年度小金井ボランティア・市民活動センター事業計画（案）
- 5) ボランティア相談報告
- 6) パワーポイント説明資料（小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況）
- 7) パワーポイント説明資料
（内灘町災害ボランティアセンター令和6年3月7日～13日派遣報告）
- 8) 名勝小金井桜チラン
- 9) ぼらんていあこがねい／市民協働応援ニュース令和6年1月～3月号

5. 議 題

- 1) 小金井ボランティア・市民活動センター令和5年度事業進捗状況について
- 2) 小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況について
- 3) 令和6年度小金井ボランティア・市民活動センター事業計画（案）について
- 4) 令和5年度窓口相談について現状と課題
- 5) その他

6. 議 事

<開 会>

山路委員長（以下委員長）は令和5年度第3回小金井ボランティア市民活動センター運営委員会の開催を告げ、議題を読み上げ審議を開始した。

議題1 小金井ボランティア・市民活動センターで令和5年度の事業進捗状況について

委員長は議題1について、事務局に説明を求めた。

事務局（久保田）

事務局は配布資料を確認後に議題1 令和5年度の事業進捗状況についてパワーポイントを使って説明をしたい。

精神保健福祉ボランティア養成講座について、令和6年1月16日から22日までに精神保健福祉ボランティア養成講座を開催し、参加者が29名、また3月19日には講座修了生を対象とした交流会の方を開催した。

当初の予定では、1月に2回、2月6日と20日であったが大雪の関係で講座が延期となるトラブルがあったが、無事に終了する事ができた。

また、実際に講座に参加した方を対象に、今後、参加者の方で何ができるかを議論する形で、交流会を開催した。また、この交流会は、4月にも再度開催する予定で、そこでサポートをして行きたい。

事務局（新開）

「療法的音楽ボランティア養成講座」は、1月18日木曜日、25日木曜日、29日月曜日、2月5日月曜日の4回、2時から4時まで開催した。申込日当日に定員の20名に達してしまい、会場が30名までは使えるという事で、10名増の30名参加という事で開催した。欠席も各回3～4人はいたが、結果4回の延べ人数も101名と、全体で参加が多かった。

講座の様子はパワーポイントの写真のとおりです。後ろまでびっしりと受講生は座っていて、実演では、先生が「この楽器を使ってこんな歌をやっています。」とおっしゃったのを受講生と一緒にしています。

講義の後半はグループに分かれ、20分ぐらい自己紹介をしたり、参加した動機を話した。第4回目は、実際に音楽ボランティアする場合の30分のプログラムをグループごとに作った。そして4回目の終了時には局長の室岡のから修了証を授与した。

2月5日に講座が修了した後、更に練習日を4回、2月15日、22日、29日、3月13日に社協2階で3時間ほど設けて、模擬演習に臨んだ。パワーポイントの写真は模擬演習の写真で、「つきみの園」で3月4日、「花物語こがねいナーシング」で3月

18日に行っている。「つきみの園」では、ボランティアコーディネーターの方が、この演習を見て感想をメールで送ってくださった。

「初めてとは思えないほど表情に余裕があり笑顔も素敵だった。歌詞カードの字も大きく見やすかった。歌詞カードを指す人も、どの角度からでも見やすいように何気なく気を配っていた。ピアノ伴奏も早過ぎず、とても歌いやすかった。楽器使用や手足を使っただけの活動も良かった。ボランティア活動が初めてではないと思える程良かった。」とおっしゃった。また、「『スゴイですね。上手ですね。』という言葉が何回も出てきたので、あまり褒めすぎると逆にバカにされたような気分になる人もいるので、意外に注意が必要です。」と、プロの目での感想もいただいた。

最後に、30名の受講生中8名の方が3月28日に参加して、実際に音楽ボランティアとして活動を始めていくという具体的な話し合いをした。

事務局（久保田）

次に資料3ページ、地域福祉ファシリテータ養成講座について。

9月21日木曜日から1月18日木曜日まで全11回、ルーテル学院大学で、この講座の方を開催し、最終回1月18日まで小金井より9名参加し、全員修了で終えた。また、パワーポイントのとおり、「い～よん」と「こがねい防災広め隊」との2団体が立ち上がっており、その団体の支援をいま行っている。また、来年度以降の活動に向けて、何度か話し合いを設けている。

次に、同じ3ページの「こがねい年越し「食」支援」については、令和5年12月11日月曜日から22日金曜日まで食品の収集期間を設け、191件、3261品の食品の寄付をいただいた。令和5年11月26日、27日、28日に、配布を希望された207名の方に食品を配布する事ができた。また、この食支援に川畑副委員長と尾崎委員と民生委員に、食品の収集や食品の仕分けで協力をいただいた。

次に、同じ3ページ「福祉教育の推進」、昨年と比べ車いす体験の依頼がだいぶ増え、同じ年度内で6件の要望いただいた。久保田と新開で車いす体験を担当しているが、かなり人も車いすも出ずっぱりで負担が大きいというのが現状の課題であり、車いすを指導するボランティアを探すところもやって行きたい。

車いす体験だけでなく、今年は特に視覚障害者の理解のため、前原小で視力障害者の会による講話を実施。また新たに今年度、精神障害の理解と題して、NPO法人KITARUを紹介して頂き、1月30日と2月2日に第一中学校の方で精神障害の当事者の話であったり支援者のお話であったり、ワークショップも実施した。

精神障害の事を福祉教育でやろう、小学校でこうゆう精神障害の方の講話もいかがですかと言うのですけれども、小学生が相手ですとなかなか伝わらないと言われて断られ

るといような事もあったので、多くの方にそういったお困り事があるという事を、小学生の子ども達にも知っていただきたく、こういった活動をもっと広げて行きたい。

次に、4ページの災害ボランティアセンターの運営に関する訓練および研修について説明させていただきたい。

事務局（近江屋）

災害ボランティアセンターの運営に関する訓練および研修については、10月22日に農工大で市総合防災訓練にて災害ボランティアセンターの設置訓練を実施している。その後、2月17日土曜日に、社会福祉協議会の理事と社協の職員に対して自衛消防訓練およびBCPの机上訓練を実施した。BCP（事業継続計画）を、昨年度3月に社協で作成した。それを職員と理事で考えて、不足な所などをもう一回確認して、実際の状況に合わせてBCPを改善して行きたい。

次の、災害ボランティアミーティングは3月9日土曜日に、商工会館で実施した。今年度は、防災まち歩きと災害に関する講演を実施し、参加者が53名、内訳が市民や一般団体が43名、関係機関の方が7名、地域福祉ファシリテータが3名とその家族も入って4名となった。その他として、聴覚障害者も参加したので、手話通訳者2名。保育も実施し、保育のボランティア1名、お子さん1名、職員4名が参加した。

パワーポイントに防災のまち歩きの実施の様子の写真を掲載している。市役所の周辺を歩いて、いろいろな防災のポイントなどを見て歩いたが、消防署、警察署、市の地域福祉課、地域安全課の職員も参加して皆で歩いた。写真は消防署のところで消火栓を実際に開けてそれを見ているところ。その後、4つのグループに別れてそれぞれ市内をまわった。

商工会館で講演をしたが、いろいろな方の自己紹介や団体関係機関の紹介など盛りだくさんで、本来は団体どうしの交流も実施する予定がそこまで至らず、盛り上がり過ぎて終わってしまった。そのため、団体同士の交流に関しては、来年度も実施したいと思っている。

事務局（久保田）

4ページの災害時のネットワーク形成について。令和6年1月1日に能登半島の地震に対して、東京ボランティア・市民活動センターから都内一斉街頭募金の募集があり、4月23日火曜日の17時半から18時半に、武蔵小金井駅の北口と南口、東小金井駅の北口と南口、の計4箇所で募金を実施した。当日は民生委員児童委員協議会の皆様、小金井市の有志職員の方々にもご協力を頂き、武蔵小金井駅の方が18万9千5百60円、東小金井の方が5万7千5百11円、総額25万7千71円の募金を頂いた。関係各所の皆様にご協力がありまして、このような結果になったと思いますので、この場を借りまして、改めて御礼を申し上げます。

事務局（久保田）

もう一点、3月21日木曜日にマロンホールで久保田が小金井青年会議所の例会に参加した。その例会で防災に関しての講演を依頼され、社協の職員の久保田と嶋田が講演を行った。実際に災害が起きた時に、青年会議所とどのような連携が出来るか話し合い、災害時の協定を社協と青年会議所が実際に結ぶのかの話にもなり、このような場をこれからも設け、他の団体とも災害が起きた時に何が出来るかを考え、いろいろな連携をして行きたい。

委員長

小金井ボランティア・市民活動センター令和5年度事業進捗状況について、質疑、意見を求めた。

榎本委員

東京ボランティア・市民活動センターの榎本です。都内一斉街頭募金のご協力いただいた皆さんありがとうございます。

私はセンターで福祉教育の推進という所を担っているが、今回車いす体験だけではなく、視覚障害の理解という話も出来てすごく良いと思った。この福祉教育の推進のところというのは、精神障害の話とか、学校の方から頼まれて始まったのか、それともこちらから提案してやったのか。その辺り、どのように推進しているのか。結構、学校の話を知ると「（福祉教育を）ちょっともう何をやっていいかわからないから、つつい車いすを頼んじゃう」という話もあるので、もしかしたら、いろいろプログラムを提案ができると、車いす以外のオファーと言うのも来やすいのか思ったので、いま、その辺りはどのようにすすめているか伺いたい。

事務局（久保田）

視力障害と精神障害の件については、視力障害について前原小に依頼した時は、前原小の方から何が出来るか聞かれた時に、まず、車いす体験を挙げて、その次に、視力障害であったり、聴覚障害であったりでも、当事者の話も紹介が出来ますとお答えした。

事務局（近江屋）

精神障害の理解という福祉教育は、社協から学校に提案している。小学校にも提案したところ、まだ子どもには早いと言われ、中学校に伺った時、ちょうどNGO光という所と知り合いになり、そういう授業も出来ると聞いたので、一回やってみてはという事で、一緒にコーディネートしている。やはり、目に見えない障害や、精神障害と差別みたいなものがあるので、子供のうちから理解してもらいたいというのが元々あり、こう言う機会をどんどん広めていければと思っている。

小金井1中からは来年もお願いしたいと聞いている。

事務局（久保田）

とくに福祉教育の方で学校から依頼される多くは、確かに榎本委員がおっしゃった通り、「何でもいい。」というか、「とりあえず何かできませんか。」というような依頼がかなり多いので、それに対してこちらが、「これができます。あれができます。」と返すようになっていて、先ほど車いす体験が例年増えていると説明したが、やはり学校の先生の間でも毎年車いすをやっているのも、とりあえず車いすでいいと、ご依頼を頂く形が多いので、毎年、ずっとやっていて、少し、マンネリではないが、当たり前のようになってしまっている。もう少し工夫して、いろいろな体験を用意出来たら良いと思っています。

委員長

私の方から、1点。

ボランティア養成講座には精神保健福祉士も、のべ82人も参加している。療法的音楽ボランティアも非常に熱心に参加者も多く、それも非常に成果を収めたような活動をやっている。地域福祉ファシリテータも災害ボランティアもそうです。災害ボランティアはよく分かるが、あとは、精神福祉保健ボランティア、療法的音楽ボランティア、それから地域福祉ファシリテータ。具体的には、団体の立ち上がりに関わっているという説明があり、こうゆう養成講座を年々やって、次第にその輪が広がって来ているのは結構なのだが、養成した後、その受け皿と言うか、その活動の場、具体的には、実践の場をどうやって提供してゆくのか。様々な情報をこの方々に出していると思うが、なかなか、他の地域を見ていると継続的にそのサポーター養成を、地域福祉の実践に結び付けていくのがどうも足りないという面があり、そういう事が無いのか、具体的な活動の取り組みの努力をちょっと、お聞かせ願いたい。

事務局（久保田）

先ほど指摘いただいたファシリテータ養成講座、精神福祉ボランティア養成講座、災害ボランティアミーティング、音楽療法ボランティアのいずれもという訳ではないのだが、やはり参加者の数自体は多いが、なかなかその後の活動までやりたいという方がいない、というのが実情であり、講座の内容を聞きたいとか講師の先生の話を知りたいという方は、たくさんいるのだが、その後の活動をしたとなると、やはりハードルが高いというか、そこに繋がる方は多くても10名くらい、ひと講座あたり10名前後と言うところがあるので、そのような方達の受け皿であったり体制みたいなものを、こちらの方で、やって行かなければいけないと思っているが、なかなかそこは難しい現状がある。

事務局（新開）

療法的音楽ボランティア講座に関しては、模擬演習をやって繋がったという形になっている。「つきみの園」と「花物語こがねいナーシング」では実際の活動を見て判断さ

れたのだと思うが、「今後も宜しくお願いしますね。」「月一回だけでもいいですからいらして下さいね。」という声がけをいただいている。

また、今回の講座参加者のアンケートを見ると、施設で働いている方とか、ピアノ伴奏をやっていた方とか、経験者が今回の講座開催をキッカケに集まったという感じがあり、療法的音楽ボランティアに関してはそこがラッキーだった。先ほどのボランティアコーディネーターの方が「初めてとは思えない。」とおっしゃったのにも頷ける。

3月28日の話し合いで、上手くまとまれば（今後も）やっていけると思われる。

また、この講座に参加した方には、高齢者対象の音楽ボランティアだけではなく、知的障害を持つお子さんなどの音楽療法をやりたいという方もいて、講師の先生から、お子さんとか知的障害のある方への活動には、その方面の知識のない方がすぐ入るのは難しいだろうということで、先ず高齢者施設で経験を積んで、それからまた広げていきたいと思いますということになっている。

問題は、これからのスキルアップをどのようにしていくか。その8名がいろいろなところで勉強したり、見学に行ったりして、技法を身につけていかなければいけないと思う。

委員長は、他に意見を求めたが、無いことを確認した。

議題2 小金井市市民協働センター準備室の活動状況について

委員長は、次の議題2 小金井市市民協働センター準備室の活動状況について事務局に説明を求めた。

センター準備室（北脇）

準備室は平成20年2月策定の小金井市協働推進基本方針に基づいて、市民活動団体と行政、または、市民活動団体間の協働に関して7業務を行っている。

この業務について令和5年4月から令和6年2月末現在まで1月2月を中心に報告を行う。活動内容のところトピックから次の6ページの2月から2点。1つ目、大学生と地域団体交流について、市内大学のサークルから地域団体を紹介して欲しいと連絡が入り、団体と繋がって何かをやりたいとの相談であった。大学生なので、自分たちが何をしたいのか伝える事がまだ難しく、大人との話すこと自体ハードルが高いようでどう伝えて良いのか迷いながらの話であったが、何かの為、助けになるような、団体としての特性を活かして地域と繋がりたいとの事でした。語学に強い大学生でしたので、最終的には英語を使いながらダンス交流をすとか、劇をすとかそういったアイデアが生まれ、具体的に何がやりたいかがわかり、その後団体と繋がりと今後の発展に注目して行きます。

2点目、外国籍の親子への支援。こちらは、行政の方からの問合せでした。対応に行政としての支援の形に限界があり、他の支援の形があれば教えて欲しいとのこと。話を進めて行ったところ団体リストを知らない様子だったので、リストを使って説明し、子育て支援団体と、国際支援団体を紹介し、無事支援の輪が生まれた。その後、支援団体の方に繋がり、入学に関する事だったので、ランドセルの寄付、書類の書き方、協働事業提案制度でタイムリーな情報もあり、今後も関連団体さんが支援する形となった。市の職員の方も意外と市民活動団体や支援団体を知らないという印象を受けたので、お電話口の方だけではなく、周りの方にも更に情報を伝えて欲しい。今後はこちらにご連絡をもらえれば、力になれる事もあるという事で、他の職員向けに情報の拡散・伝達の方をお願いした。

次に相談・コーディネート業務のところ。こちら実件数134件とは、4月から2月までの総件数であり、実数なので、下の連絡手段の所には延べで書いてあるものを全て計算すると、一つの相談につき、だいたい2.5回はやり取りをしている計算になる。1回で終わる方もいれば、中には、5回、6回と相談される方もいて、平均で2.5という数値になった。

7ページ目。2番の情報の収集。資料収集では各市の協働センター機関紙、各団体の広報紙などを集め、他市の情報を学びながら小金井市に参考になる所が無いのか、他の団体の課題で、使える所は無いのかという事で、毎月、資料を確認している。

3番、情報の発信。手元資料として配布した、ぼらんていあこがねい1月2月3月の後ろに、市民協働応援ニュースがある。そちらを使い準備室からの情報発信PRをしている。こちらの中で周知していることは、NPO法人連絡会、福祉NPO法人連絡会、イベント、講座。他には、助成金、その団体の課題や課題解決に手助けになりそうな情報。団体にできるだけそれに沿った内容のものを提供するように心掛けている。

また、ブログに関する所では、8ページのアクセス数が、資料の状態（各月213件～502件）になっている。

4番、市民協働の推進。電話やメールもしくは直接、顔を合わせながら、コミュニティ文化課との打合せを行い、情報を共有しつつ、協働の推進に努めている。NPO法人連絡会、福祉NPO法人連絡会の会議へも参加している。

6番、行政への協力。協働提案制度が今年から市民提案型と、行政提案型の二つに増えた。それに伴い、相談の件数も増えている。令和5年度採択事業は例年より多く、3件あり、すべて見学した。1件目は市民提案型の国際支援協会（KISSA）のシンポジウム「多文化共生の地域づくりを目指して」「外国ルーツの子供のための教育支援」。2件目は、同じくKISSAの「外国人保護者のための入学準備会とガイドブッ

クの作成」。こちらにガイドブック原本（閲覧用）があるので、興味ある方は窓口にて貸出します。

3件目、今年初になった行政提案型の、はけの手アニメーションの「小金井魅力発見！」「市歌「光りさす野辺」「みんなでつくろう。ミュージックビデオ」の3件とも、どれも大盛況で、行政が開催するのとは違う柔らかさとか、自由度とか、そういうものが前面に出たて、協働した意味があるなという内容の物になった。はけの手アニメーションとは2年目も連携しつつ、どういったお披露目会になるのか大変楽しみにしている。

委員長は、市民協働支援センター準備室の活動状況についての報告について質問、意見を求めたが、無かったため質疑を終了した。

議題3 令和6年度小金井ボランティア・市民活動センター事業計画(案)について

委員長は、議題3 令和6年度小金井ボランティア・市民活動センター事業計画(案)について事務局に説明を求めた。

事務局（久保田）

次第の10ページ。令和6年度の小金井ボランティア・市民活動センターの事業計画(案)について、令和6年度の基本方針から。現代社会は、経済的な成長をとげ、我々の生活を保障するための法的な整備がなされている一方で、企業により営利の活動や行政による法的な仕組みだけでは、様々な我々の暮らしに中の課題を解決することが難しい状況が生じている。そんな課題解決のためには非営利活動の団体への支援は必須であり、そういった方々の中間支援組織の事業を運営するとともに、地域の課題を解決するための地域福祉の活動を実施かつ推進をして参りたい。また、それに伴って小金井ボランティア・市民活動センターと、小金井市民協働支援センターと、また、福祉総合相談窓口などとも連携し、市民の方からの様々なニーズに応えられるよう対応して行く。

こちらの基本方針を基に、事業計画(案)の方を作ったが、前回第2回の運営委員会でも、こちらの計画のところを触れたが、内容は大きく変わった所は無いが、主だったところを説明する。

11ページのところの「・」のふたつ目の団体交流会の実施では、令和5年度9月に開催し、市内のさまざまな団体が社協の2階において交流した。こちらはかなり好評で、来年度以降も行いたい。

その下の、こども若者支援事業に関しても、講座を、来年度以降も開催したい。

12ページのディスレクシア啓発事業も令和4年度と令和5年度、2年連続で講座を開催して、講座終了までに参加者の交流会を実施し、その中で団体が設立したので、そちらのサポートを継続して行っていくと共に、次の13ページのとおり、ディスレクシアの相互理解のための啓発講座を実施して行きたい。

で、最後に、こがねい福祉マルシェは令和5年度も11月に社協の駐車場で開催し、かなり盛況で、いろいろな団体が集まり、いろいろな方が興味を示し来場していただき、かなり良い事業であったので、また来年以降も実施して行きたい。

委員長は、令和5年度こがねいボランティア・市民活動センター事業計画（案）について、質問、意見を求めたが、発言無し。

委員長

1点だけ、この令和6年度基本方針の中で、小金井ボランティア・市民活動センターと小金井市民協働支援センター（仮称）となっているが、それと「業務内容の調整を行い、小金井ボランティア・市民活動センターの業務を精査していきます。」とあるが、これは具体的にどういう中身なのか、教えていただきたい。

事務局（近江屋）

いま、同じ事務局の中で隣り合って協働支援センター準備室とボランティアセンターがあるが、やはり市民活動団体を対象とした相談という事で、同じ対象者となっており、その中でも役割分担を考えながら、たとえば、ボランティアに関する事はボランティアセンターへ。NPOに関する事は協働支援センター準備室がメインでやっていこうという事で、整理はしている。だがどうしても、ボランティアの人もNPOの人も一緒にの団体の方もいるので、確実に分けるというのはできないので、やはり連携しながら進めて行く形で実施している。

今後、「準備室」が取れた時にどうなるかというところを踏まえ、またもう少し、整理して検討していければと思っている。

委員長

はい。わかりました。市民協働支援センター準備室の「準備室」の方はいまどのような状態になっているか。ここ（が取れるのは）は、いつか。

中川委員

市民協働支援センター準備室については、社協で準備室を始めたのは、確か平成21年。小金井市で協働の方針を作ったのをキッカケに社協が引き受けて準備室を作って、早や14年して、議会からもいつまで準備しているのかなというのと言われており、そろそろ準備室では無く、ちゃんとしたセンターとして立ち上げたいという事で、これは、コミュニティ文化課が所管する事業になるので、何らかの形を早く作りたいなと思

って令和6年度、我々も、社協と相談しながら、新しい形を模索する事になると思うが、まだちょっと、こういうイメージを目指しているという形で皆様に示すところまで聞いていないというのがいろいろ。

竹村委員

例えば年間の活動計画とか、こういった形で事業計画書はあると思うが、これ自体は特に市民の皆さんに公表しているものではないという事なのか。今年度、年間としてこういった活動をして行きますという、どのような形で逆に広報してゆくのかとか、これからの活動もそうですし、今までの所も、たぶん、毎月毎月お便りという形では、配布しているとは思いますが、もうちょっとまとまった形で、例えば、3年間こういった取り組みをボランティアセンターとしてやって来ましたとか、そういったものがあると、実際に、福祉の人間でない限りは、やはりボラセンとか社協の活動って何をやっているのか、なかなか伝わりづらい部分があるのかなと思うと、広報の部分もすごく、ホームページの所とか改訂したりとか、フェイスブックなどやっていると思うが、改めてそのあたりの見直しとか、発信みたいなところは、もっと、あったりすると、ボランティアの担い手が増えたりとか、協力してくれる人が増えたりとか、市内の企業さんとか、繋がりを持てたりという所もあるのかなと思うので、そのあたりも、ぜひぜひ、せっかくいろいろなことを積み重なってやって来ていると思うので、その発信の所を改めてご検討いただくと、より良くなると思う。

委員長

広報のありかたの問題ですか。

事務局（近江屋）

竹村委員の言うとおりに、（社協が）やっていることを広報で皆さんに知って頂くような努力をもうちょっとしないといけないなというのは、今こちらでも話している。社協全体も含め、やっぱりやっている事業などを、すぐホームページにアップしたり、SNSだったりという事で、どんどん、随時挙げて行こうという事で、上からも言われており、ボラセンとしてもこれからどんどん、ホームページにアップしていこうとは思っているが、なかなかまだ出来切れてない。社協全体としては、広報の方はどんどん広げて行ければなというふうには思っており、なんとかがんばりたい。

事務局（新開）

広報のひとつになっているかどうかなのですが、先ほどのパワーポイントにある福祉教育の推進という所で、車いす体験の打ち合わせに伺った際、南小学校の先生から、「車いす体験の他にも、社会福祉協議会はどんなことをしているかも紹介して頂けますか。」とお話をいただいた。

「夏のボランティアと言うのを小学校4年生から受け付けています。清掃ボランティアもあります。」「高齢者の一人暮らしの方にハガキを書くというボランティアもやっています。」「小金井の食支援として集まった食料を学生さん達とかいろんな方に配っています。」などを、パネルにして写真を中心に紹介した。先生がとっても喜んで下さり、夏のボランティアとハガキボランティアに関しては、6年度にやりたいというお気持ちがあるようで詳しく聞いて下さった。こういう地道な紹介をする事で、学校にも繋がっていったら良い。

竹村委員

例えばその活動を、こういう事をしています。とリアルタイムにホームページなり、Facebookなり、ブログなりってところで、たぶんアップされているところはあると思うので、それとプラスで、年間でこういう事やっていきますとか、その時期の目途だけでも年度初めにやっている、例えば、この時期にこういう事やるのだったら、ちょっと予定を空けておこうかな、みたいな事であったりとか。あとは、これからの予定もそうですし、今までやったところとかも、ひとまとめになっていたりと、リアルタイムで常に更新して行かなければならない部分と、たぶん、ホームページを見れば何となくボランティアセンターは活動をしているのだということが、一目見ればわかるころと、どちらもあると良い。もちろん、日頃の事をやりながらの更新作業は、結構大変な事はよく分かってはいるので、無理のない範囲で、いかに効果的に、効率的にやってくかと思うので、いろいろと大変かと思うが、ぜひ、チャレンジしてほしい。

渡辺委員

来年2025年は75歳以上の方が多くなり、その中で家に閉じこもると確実に認知症に繋がると言われ、これからも社協の役割は大きいと思うので、ぜひPRを積極的にやって頂きたい。

委員長

いま、私より上の世代の人達、団塊の世代が75歳を迎えて一挙に750万人ぐらい出るのではないかという話なので、その問題は社協だけではなくて、市の高齢者支援、介護保険だけではなくて高齢者支援の取り組みと一体になって、ぜひ、元気高齢者づくりというのを進めていっていただきたい。これはもう、最大の、地域にとってのこれからの問題だと思う。市の方もよろしくお願い致したい。

事務局（小早川）

いま、渡辺委員からご指摘のあった課題について、ボランティアセンターだけでなく、社協全体として取り組まなければいけない問題だと思う。先日、理事の方とお話ししていたら、一人暮らしの高齢者の男性の方が、孤独な食事のいわゆる「孤食」の課題があると言われまして、社協の方に何とかできないか、と言われた事がありました。女

性の方は、社協が行っている「一人暮らし高齢者の交流会」など、そういったイベントに結構来ていただいたりするのですが、高齢の男性の方の一人暮らしの場合は食事をする事はやはり一人で食べる事が多くて、他の人と一緒に食べられるにはどうしたら良いのだろうか、という相談を受けました。なかなか、男性の一人暮らしの方は、他の知らない方々と一緒にご飯を食べましようと言った時に、それだけでは、中々家から出て行かない、という話をして、例えば趣味で麻雀だったり、将棋だったり、そういった趣味の一環で集まった後で皆さんで食事しましようというような事も考えないといけないのだなど、理事の方とお話して、社協の方でも何か取り組める事は無いかと考えているところです。

委員長

それはもう、ぜひやって頂きたい。

加藤委員

感想ですが、今回（運営委員会）に出て3年目になりますが、1年目はコロナ禍だったこともあって、中止になったり、リモートで参加が少なかったり、そうゆう何となく、そうなのだと思っていたのですが、今年の報告を聞き、本当に少しずつ活動も増えて、集まりも盛況で、そうゆう報告を聞いて、皆さんもとってもいきいきしていて、やりがいを感じているのだろうなど、とても思いました。これがまた、来年に繋がって行って、ここにやっている事業を本当にこれを全部するだけでも大変だろうと、思うのですが、参加者の方が、やっぱり、口コミと言うのが広がって行くと思うので、いろいろな伝わり方の中には、人と人の口を伝わって行くのもたくさんあると思うので、そういう活動をとっても楽しみにしています。

松嶋委員

広報の事なのですが、（準備室の）ブログはライブドアを使っていますが、記事の中で、記事がストックになってしまっている。やった事、もしくは、お知らせしかない。みたいな。意見交換の場になってないというか。だから記事にハッシュタグを付けたり、コメントを受け付けたりして、少しオープンにする。それから、ツイッターやっていますか？ツイッターをライブドアにリンクして、バナーで張れるので、いつでも双方飛べるようにして、両方にハッシュタグをつけると、アーカイブの所に、今、月別になっているのですが、あと、カテゴリ別。ハッシュタグだとそのカテゴリが複数に含まれますよね。#認知症、#孤食、両方の言葉が載っている記事とか、つぶやきが全部に載るので。それに探しやすくなるのです。だから、そんなふうにして工夫するのと、あと、パソコンで見ると、右上にお問合せとプライバシーポリシーと個人情報保護方針なのですが、押しても飛ばない。これは何か事故っているのでは、見直した方がいいと思います。

その感じで、ツイッターなどでもハッシュタグを付けてどんどんやると、報告だけじゃなくて、皆さんはどんな方法、さっきの、例えば団塊世代の男の人が孤食で、外に出す方法をアイデア募集みたいにして、自分たちの頭で考えると出なかったアイデアとかが、外から集まって来ると思うので、中にはくだらないアイデアもあると思うのですが、ときには、素晴らしいアイデアも混じると思うので、とりあえず拡散する。何かあるたびに、今、NOWですよ。もう古いですけど、今やっているイベントの様子を伝える。で、ハッシュタグ付けて重ねて行く、みんなの意見も書込み易いような、意見を集めやすいような。ツイートとは言わずに“ポスト”をするという雰囲気にとすると良いと思いました。

委員長

貴重な、いくつかの提案があり、そういう工夫も必要。準備室のホームページを見た意見も参考にしてください。

議題4 令和5年度窓口相談について現状と課題

委員長は、他に質疑が無く、議題4 令和5年度窓口相談について現状と課題について、事務局に説明を求めた。

事務局（新開）

ボランティア相談報告という資料について説明したい。

前回の第2回の運営委員会の時に窓口相談で、心の疲れている方が職を辞めたりして、その前段階として、何かボランティアをしたいという方の申込の話をしたが、今回は1月から3月までの表である。事業計画の10ページ11ページ、窓口の設置という所の最後の所に、「男女別や年齢別など記録し、どのような傾向か分析し今後の相談に活かす」とあるが、その一つとして、このような表をこれからは作って、皆で共有していきたい。

窓口相談は、その時に電話を受け取り次いだものが中心になって話すのだが、その後、皆で共有して、翌朝の会の時に、昨日こんな案件があったという事で、他の職員からもアドバイスを頂くなどして話を進めている。今ここに記載のあるものは、今回は心の疲れた方というよりも、逆に「3月に退職、仕事を辞めるのですが、その後まだまだ色んな事をやりたいのでボランティアとして何か活躍できる場がないだろうか。」というものを探している方が何人もいらして、明るい前向きな形が多かった。

この、延べ件数と言うのは、その1件の内容について私たちがお電話をして繋いで、また電話をして繋いで、あちらと繋いで、そしてあちらと話してというような形で、一つの件に関して行ったすべての件数がここに書かれている。

3番、11番、20番、24番に背景色が付いているが、これは、私が担当したので、詳しくお話ししたい。

まず、事例3について。「けやきの杜グループホーム」という所が本町4丁目に新しく出来、そちらのケアマネージャーから音楽療法ボラ、三味線を出来る方、傾聴ボラが出来る方が月1回ぐらい入ってくると嬉しいという電話を1月17日に受け、サロン活動の中に「民謡友の会」というのがあり、三味線の先生が2人入っているのでお声掛けした。桜町の施設でもコロナ前は活動を行っていたが、三味線の先生が今、入院してしまって、1月から活動休止状態だと返事を頂いたので、けやきの杜にその状態を伝えたまましばらく経ち、3月。（先生が）退院なさって活動開始となり、民謡友の会から「桜町の時は、駅からの送迎をして貰ったのだが、またそれも出来ますか。」とのこと。それに対し施設の方からは、「はい。7人乗りのバスで送迎も致します。」という返事も頂いたのだが、最終的にはこちらは、民謡友の会から「皆さん高齢になっていて、やはりちょっと、その活動をするのは難しい。」という事で、お断りが入ってしまった。今後は、今、立ち上がっている音楽ボランティアの方で、こちらに入れたらいいなという形で話が終わっている。

11番の件に関しては、世田谷で塾の講師をしていて、羽村の方で、福祉課の委託事業として、貧困家庭の生徒の進路指導をしている方で、この3月で仕事を辞める。小金井在住なので、小金井の児童養護施設などでボランティアをしたいとの事だった。最初、東京サレジオ学園の方に連絡をしたが、こちらは今、施設建て替えのため、ボランティアは採っていないとの事で、一か月くらい保留になっていた。その後、件案の21、22番の、南中の校長先生から依頼があり、中1、中2の引きこもり気味の生徒の朝のお迎えを今まで養護教員をしていた方がやっていたけれども、ちょっと違う仕事に移ってしまうので、誰かいないか探していると連絡があった。

この方が良いのではないかと思い、3月15日に南中へ、近江屋職員とその方と3人で行って、校長先生、副校長先生と面接した。その話の中で、お迎えをするだけではもったいない人材だと思い、もう少し話を進めていって、別室指導員という仕事が一年任期で有るという事で、こちらにも空きがないかをお聞きしたところ、お迎えと別室指導員両方で採用していただければ、別室指導員の方は有給指導員になった。

20番の方は、養護施設に勤めている方であり、週3回の休みに読み聞かせのボランティアをしたいとのこと。まず、図書館本館にご連絡して見たら、「読み聞かせは団体として登録して貰って行っています。その団体に入られては。」という事。

あと、子ども家庭支援センターの方は、広場に入って保育をしながら、その中で読み聞かせをするのはいかがですかというお話。

既にこの方は、この子ども家庭支援センターはなさっているという事で、ここでまたお話を聞いていったら、文学座に10年いたという事とかをお話して下さり、もっとしっかり活動をしたいという事がわかったので、最終的には、小金井で一番古くからやっている「こごうち文庫こどりの部屋」というところが、文庫活動の他に、本館の団体にも入っていて、第4火曜日に絵本の勉強会をなさっていることで、こちらの話をしたら、「あ、こちらに参加しようと思います。」という形で繋がった。

24番の男性は2年ほど前に小金井に転居して来て、それまで囲碁ボランティアをしていて、こちらでもやってみたいという事。囲碁ボランティアがあるか「つきみの園」、「ブルコーニュ」、「臺」に聞いてみたが、「希望者があったら連絡します。」との事でそこまでだったが、「つきみの園」のアドバイスで、デイサービスの「夢楽」で麻雀や囲碁をやっているという事で繋いだところ、「夢楽」は商工会を中継したボランティアを受けているそうで、「商工会のポイントが付くというボランティア活動を商工会でやっている」ので、そちらに繋がって行くことになった。

このような状態で1月から3月までは、ボランティア希望が15件、そして、依頼が8件、そして社協が対応した延べ件数としては82件であった。

委員長

今の話を聞き、いろいろな方々が、ボランティアをやりたいと思う人たちが、特に退職世代が増えてきているので、それを繋いでいく事は非常に重要だと思った。

竹村委員

本当に、この報告はすごく良いと思い聞かせていただいた。本当に3ヶ月だけでも、小金井市の地域のニーズと言うものを、すごく、透けて見えるところがありますし、先のPRの話とも繋がるのですが、こういった部分の情報も市民の方に知って貰ったりすると、自分だったらこういう事が出来るかもとか、逆に、手が欲しい側からしても、こういう事でお願いが出来るのだという、開拓というか掘り起こしにすごく繋がるのではないかと思ったので、何かそういった事も、ぜひぜひアピールしていくと良いのではないか。

委員長

この件については、そういう事で、今後もよろしくお願いいしたい。

事務局（小早川）

ここの相談には入ってはいないが、今年度けっこう多かったのは、前回の運営委員会の時にもお話をさせて頂きましたが、福祉総合相談窓口の相談者の方で、精神疾患の相談者が結構多くなってきており、その方々の受け皿的なものを、ボランティア活動とか出来ないかという相談が、今年度、結構、多く見受けられました。社協2階の丸テーブルの所で、空いている曜日で切手の整理とか、そういったボランティア活動をしている方

がいて、そこの中に一緒に入ってやって頂くという事も行っていたのですが、丸テーブルの座席数と定員が限られており、ちょっとお断りしている状況も出てきております。ただ、相談の方では、やっぱり自分は就労する前に何か地域でやってみたいとか、ボランティアをする事で自己肯定感を高めるとか、もちろん、そこにもまだ行きつかない方もたくさんいて、それはそれで、別の課題であるのですが、自分が折角相談に来て、そのあとどこかと繋がりたいという受け皿として、ボランティアセンターで何かできないかなという事で、先ほど報告の時にも出たのですが、精神の講座がこの間終了し、その修了生の方と来年度以降、そういう当事者の方の居場所を作っていけたら良いなというところで現在調整中です。

委員長は他に意見を求めたが無く、この件についてはこれで終了した。

議題5 その他

委員長は、議題5 その他について事務局に説明を求めた。

事務局（久保田）

補足説明として、事務局から2点の報告。

1 点目がふれあいいいきいきサロンを口頭で説明。

第2回運営委員会でも少し説明したが、ふれあいいいきいきサロンの助成事業をしていて、いま、ふれあいいいきいきサロンは45団体が登録され、その中から希望される団体に助成金を交付している。令和5年度の助成金の交付額が58万7千200円となっているが、こちらの予算が60万という金額に対してなのだが、申請金額が120万近くで予算と合わないために、助成金額を半分にカットする形を取り、58万7千200円を団体に公布した流れになった。団体にはかなり負担を掛ける形になったので、令和6年度はそのような事が無いようにするにはどうしたら良いかという事で検討すると、第2回の際に説明したのだが、その対策として、助成金の申請期間を2回に分けるという方法で対応して行きたい。

助成金の申請期間を4月1日から30日までを1回目、そして、それ以降に申請に来た団体は、新規で団体を立ち上げたいという団体に限って、助成金を出す形。既存の団体は1回目の申請期間で申請を受け付ける事にすれば、新しい団体に、予算が無いから助成金は出せないと言うような事が無くなると思うので、その形で来年度は対応させて頂きたい。

なお、この事について今回の報告に記載はないが、3月25日、ふれあいいいきいきサロンの団体の登録をしている団体向けに、ふれあいいいきいきサロンの連絡会というものを開催した。サロンの代表がこちらの社協の2階に集まり、情報交換であったり、助成

金の説明等を行い、その時にもこの事をお伝えて、助成金の申請について了承を得ている。

もう一点、スライドショーをご覧いただきたい。

私、久保田が石川県内灘町の災害ボランティアセンターの派遣に行っていたので、議題には無いが、簡単に報告させていただきたい。

1月1日の能登半島地震の影響で石川県内灘町に災害ボランティアセンターが設置され、そちらの運営の支援を目的として、私、久保田が派遣されました。全国社会福祉協議会の関東ブロックからの派遣要請に基づいての派遣であり、第一クール、3月7日から3月13日に掛けて、内灘町へ行ってきました。

簡単ですがこちらが地震の概要となっています。実際に私が派遣させて頂いた内灘町も、震度5弱の地震が有り、後ほど説明をいたしますが、地震による被害がかなり酷くて、特に液状化が酷くてかなり地面が隆起するなどの被害状況が多かった印象でした。

こちらが派遣先の石川県内灘町の左が全体図で、右が拡大図になっておりまして、特に、内灘町の地形が縦に長いというのが特徴になっていて、下の方の「鶴が丘」という地名や「宮坂」という所はかなり能登より遠く、南の方にあるので、あまり被害は無かったのですが、上の方にある「西荒屋」と書いてあるところや「室」と書いてある所は、かなり被害が酷かったなというような印象でした。

具体的な被害状況については、断水や、先ほどご説明した液状化による被害が顕著に起こっており、町全体が砂丘の上にあるような構造をしているので、かなり液状化しやすい環境にあるという事で、こちらの写真が内灘町の様子になるのですが、こういった形で被害が大きく、地割れや隆起したりと言うような被害状況が起こってありました。

こちらが、実際私が派遣されていた、内灘町の災害ボランティアセンターの様子になります。こちらの社会福祉協議会の中にボランティアセンターがあって、その中で災害ボランティアセンターを立ち上げているところでした。実際の活動内容なのですが、ここ（のスライド）に1から7を書かせて頂いたのですが、災害が起きて被害が起きた時に最初にニーズの受付をして、そのニーズに基づいて被災地の方に現地調査に行ってしまうような流れで、1から7まで活動を行っていくという所なのですが、私、久保田が主に担当させていただいた1のニーズ受付というところと、その他庶務ですね。ニーズの受付であったり、ボランティアの活動の報告書の管理をさせて頂きました。

こちらが、内灘町の災害ボランティアセンターの組織図ですが、こちらが組織図になっていまして、右側に、ニーズ受付と現地調査と書いてありまして、こちらが、私が担当した業務になっております。左のほうは総務になっていて、こちらは、内灘町の社協の職員が担当されていて、実際に災害ボランティアセンターのボランティアの受付だったり、活動を紹介するという業務に関しては、県から派遣されたボランティア協会の職

員であったり、内灘町ではないのですが、近隣の地区の防災士会の方々が協力して、災害ボランティアセンターの運営を手伝っていたと言うような状況でした。

ここから写真が続くのですが、実際に災害ボランティアセンターの事務室がこの様な形になっております。ここは、事務作業をするだけなので、特に何も資材が置いてあったりする様な形では無く、ここで、事務処理を行うという形になっています。

こちらは、事務局の中なのですが、実際にボランティアのニーズがあったら、左側のニーズ実績を書いたり、ボランティアの受け入れの状況だったりという所を書かせて頂いていると言うような形ですね。

右の方にはいろいろなチラシがあるのですが、災害が起こった時に瓦礫を処理したり、実際にボランティアが必要ですよというニーズを発信するための、「ボランティアが来て欲しいです。」という方に向けてのチラシなどが貼ってあったりしている、そういったものを貼ってあるというのが右の図ですね。

こちらの方が実際にボランティアの受付の窓口の所と、ボランティアの内容紹介に使うブースになっていて、こちらの方が、先ほど少し説明した、県から派遣された防災士会の方であったり、防災ネットワークの方であったりが実際に活動を紹介したり、ボランティアを受け付けたりしているブースになっています。

こちらがその時の様子なのですが、右の方の写真ですが、濃い緑色のビブスを着ているのが実際のボランティアで、赤い服を着ているのが内灘町の社協の職員になっています。この日はたまたま内灘町の社協の職員が、いろいろと説明をされていたのですが、実際は、奥の方に立っている方々が、ボランティアの活動を紹介するボランティア。防災士会の方であったり災害ボランティアの協会の方であったり、実際に被災地に向かうボランティアに活動を説明するというような形で進めている所です。

こちらは、社協の入口の所に様々な資材が置かれている様子です。こちらも、社協で持っているものもあれば、借りたものもあっていました。

こちらが、実際にボランティア先に行くための左がハイエースと右が軽トラになっています。これも、社協が持っているものでは無く、借りているものと言っていました。

こちらがその他資料なのですが、先ほど少しご説明した、左の方が内灘町の社協のビブスになっているので、こちらを付けて活動をするという様な形ですね。右側の方が、一日のボランティアの活動の予定表になっておりまして、時間を決めてボランティア活動をやって頂いていると言うような形になっています。

こちらが、そちらの次の資料なのですが、内灘町の青年会議所との連携と、ちょっと書かせて貰ったのですが、こちらの今のスライドの方を、さきほど、ちょっとご説明した、小金井の青年会議所と、連携の所でもお話させて頂いたので、こちら付けさせてい

ただいているのですが、実際に内灘町の社協の局長から伺った話ではあるのですが、内灘町の方では、青年会議所という名前の団体は存在していなくて、内灘町の商工会青年部がそれにあたるのではないかというお話で、そういった団体や人とあまり連携が取れていないというお話がありました。実際に社協があること自体も分かってないのではないかな、とも言っていました。また高齢化率もかなり高くて、若い人もいないので、ちょっと、その点も厳しいかな、と言っていました。

最後に所感なのですが、実際に私は派遣させて頂いて一番感じた事が、災害が起こった時に使える社会資源が、やはり一番大切だと感じました。実際に内灘町のボランティアセンターでは、あまり他の団体と連携するというよりかは、県からの派遣、言い方はちょっと良くないのですが、県からの派遣にこう頼ってしまっている部分があるかなという所がありまして、あまり、内灘町の中の社会資源でセンターを回していると言うような形では無かったので、やはり実際に小金井で災害が起こった時もあまり周りの団体と連携が取れていないと言うような形になると、やはりちょっと対応が難しいのかなと思ったので、日々の団体さんとの関わりが非常に大切なのだなという事を一番に感じました。ですが、その中でも唯一、民生委員の方とは連携が取れているという話を聞きまして、実際に私がボランティアのニーズ受付をやらせて頂いたのですが、そこに民生委員も一緒に入って頂いて、実際に事務作業とかお手伝い頂いていたので、そういった所とはしっかり連携が取れているのかなと思いました。逆に町会との団体はあまり機能していないとも言っていて、そのあたりとの連携とか、関わりをしっかりとやっていかないといけないというお話もありました。

以上、内灘町の災害ボランティアセンターの報告をさせていただきました。その他に関して、事務局から以上となります。

委員長

ありがとうございました。久保田さんご苦勞様でございました。

委員長は、いまの報告事項について質問、意見を求めた。

松嶋委員

森田委員と一緒にのですが、南中学校で避難所運営委員会と言うのを立ち上げて、小金井市ではだいたい、中学校が中心に避難場所になっているので、そこを中心にした、近くの障害や自主防災会などが今一緒に計画を立てている、実際にいろんなところの面積を計って、何人収容できるかとか、トイレは何回分必要か等、そういう事も同時に進めています。そういう時に、やはり他の団体との連携がすごく大事です。今一番困って、どうするのだろうねとなっているのが、高齢者や障害者の人達が、それと、所属する所を持たない不登校の方達、本当は学校にいるはずなのです。家に居るみたい

な。その避難所としての運営をどうするか。そういうところで、出向にいらした所を見ると、ここもそういう役割を担う組織なのだなと改めて思ったのですけれど、やっぱり普段からそういう関係性を持っておくと良いと思いました。

委員長は、議題、その他については一通り終わりを告げ、他の発言有無を確認した。

三浦委員

市役所の生涯学習課の三浦と申します。

今年は2024年と言うのは皆さんご存知なのですが、遡る事、1924年でございます。大正13年に小金井市の桜が名勝に指定をされ今年でちょうど100周年という事で市ではいろいろな事業展開を図っている所でございます。先週の土日に桜まつりがあって、ちょっと残念だったのですが、今申し上げている名勝桜の方は小金井桜と申しまして、小金井公園にあるのはソメイヨシノですね。名勝小金井桜のほうは、昔の桜なので、ちょっと色が違う、ピンクというか白というか、そんな形の花が咲くそうでございます。場所は、玉川上水にずっと植わってまして、いままでなかなか管理が行き届いてなくて、雑木林のようだったのですが、だいぶ剪定作業が進みまして、綺麗になりましたので、ぜひ皆さん、五日市街道沿いを少し歩いていただくと、ああきれいになったなというのが実感頂けるとと思いますので、ぜひ、お運びをいただければと思います。

ちなみに桜の開花時期なのですが、ソメイヨシノから2週間遅れてから丁度満開の時期らしいので、もう少しすると綺麗な花が見られるのではないかなと思ってございます。

合わせてですね、武蔵小金井駅の方にも今、ポスターをいろいろ貼らせて頂いておりまして、駅の方ともタイアップさせて頂いていろいろなイベントを展開してございます。今日もちょっと市内の和菓子屋さんの方に足を運びまして、「なんかお菓子作ってくんないの」みたいなお話をちょっとさせて頂いて、いろんなところでこの、ロゴマークが目に入る事があるかと思っておりますので、もし、皆さん目に止まる事がありましたら、そんな事を言っていたなど、思い出していただければと思います。

今年の12月8日に、市民交流センターの方で記念式典をやらせて頂きますので、その時もまた市報等でアピールさせていただきます。ぜひ、皆様記憶に留めていただければと思います。

あと、これがロゴマークのシールなのですが、パソコンなどに貼って頂けるのが良いかなと思っておりますが、私もパソコンに貼ったら怒られちゃいましたけど、どこかに貼って頂ければと思います。ありがとうございました。よろしく願いいたします。

委員長

ありがとうございました。桜が楽しみです。

委員長は事務局に発言を求めた。

事務局（久保田）

最後に事務局長の室岡事務局長よりひと言。挨拶を頂きたい。

事務局長

事務局長の室岡でございます。私事で大変申し訳ないのですが、この3月末をもちまして、事務局長を規定によりまして退任いたします。それを機に、私、社会福祉協議会を退職致しますので、本当に運営委員の皆様には、私の在任期間中、いろいろとご意見をいただきまして本当にありがとうございました。新局長が来て、また、ボランティアの推進をして行くと思いますので、やる気のある若手が揃っておりますので、叱咤激励をいただきまして、また応援を頂ければと思います。どうも本当に長いことありがとうございました。

（拍手）

委員長

どうもご苦労さまでございました。

それでは、今年度の小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会をこれで閉会します。

なお次回、令和6年度第1回小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会の日程は、副委員長及び事務局と調整し、ご連絡します。

<閉 会>

以下 余白